



福井県PTA

◆発行者:福井県PTA連合会 会長 田本憲恭 広報委員会
 ◆発行所:〒918-8135 福井市下六条町14-1(福井県生活学習館2階)TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
 ◆ホームページ:<http://www.fukui-pta.jp> (公社)日本PTA全国協議会 <http://www.nippon-pta.or.jp/>
 ◆E-mail:mail@fukui-pta.jp



**PTA活動中の事故の防止を。
 万が一事故が起きたら、
 一報を。(届出は30日以内)**

**福井県PTA連合会安全会
 ☎ 0776・41・4253**



CONTENTS

◆第56回 福井県PTA連合会 研究大会 全体会	2・3	◆日本PTA全国協議会 表彰式	8
◆第56回 福井県PTA連合会 研究大会 分科会	4	◆福井県選出国議員への請願活動報告	8
◆「一筆啓上・我が家の三原則」優秀作品発表	5	◆ネット研修会・総合保障制度のご案内	9
◆第70回東海北陸ブロックPTA研究大会 分科会	6	◆ブロックより こんなことやってます	10
◆ドクター通信	7	◆編集後記	10

第56回 福井県PTA 連合会研究大会

育もう、子どもと共に「感謝」と「勇気」～チェンジ・チャレンジ・コミュニケーションのPTA～

全体会

平成26年12月6日(土)
ユー・アイふくい



研究大会の開催にあたり

福井県PTA連合会 会長 田本 憲恭

さる12月6日、第56回福井県PTA連合会研究大会並びに、平成26年度一筆啓上・我が家の三原則の表彰式が、前日から近年には珍しく大雪になりましたが、県内各地から500名以上と、多くの会員の皆様にご参加頂き盛大に開催されましたことを心より感謝申し上げます。また、福井県教育委員会教育長 林 雅則様をはじめ沢山のご来賓にご臨席賜り花をそえて頂きました。厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の子どもたちを取り巻く環境の急激な変化にともない、家庭・学校・地域の結びつきが非常に重要となり、PTA活動においてもさらなる変化が求められています。私が県内各ブロックにお伺いすると、会長会等を開催し、子どもたちの現在将来について活発な意見交換が行われています。また、各単位PTAでも興味深い活動が行われ県内PTAのお互いの参考になることと確信し情報交換ができればと考えておりましたところ、今大会において総務委員会の皆様から各単位PTAにアンケートを実施して意見交換会という企画提案があり、以心伝心のPTA活動の不思議に驚いておりました。やはり「子どもたちの為」が大前提の活動の賜だと思えます。

今年度の研究大会は福井県PTA連合会のスローガン「育もう、子どもと共に『感謝』と『勇気』」をテーマに、保護者の方々が今一番知りたい子どもの環境を共有し、話し合い、実りある分科会を開催して頂きました。明治から始まった良い日本人としての生き方教育から、高度成長期の質の高い労働力の創生をふまえた教育に変化し、今また新時代を見据えた教育に早急に変化しないといけない時代になっています。世界に出ていく子どもたちのため、私たち保護者がPTA活動とともに真つ先に変わっていくかなければいけないと思えます。小学生の自転車乗車にはヘルメット100%着用推進を進める鯖江市の小学校。PTA役員数の縛

りを撤廃し全員参加型のPTA活動を行い、次世代のPTA活動を模索する気比中学校。子どもを取り巻く環境や、いじめ問題、登校・生活の安全安心の確保を、家庭・学校・地域が積極的に連携し取り組んでいる各郡市PTA連合会。各々が大変素晴らしい取り組みをされています。私たち福井県PTA連合会は皆様の活動の先頭に立ち、子どもたちが安心・安全の生活の中、自信を持ち自分の夢に向かって自立できる環境を作るために、これからは皆様と共に学んでいきたいと考えています。

研究大会を終えて

福井県PTA連合会 総務委員長 結川 孝利(勝山市村岡小学校)

初めに、12月上旬には珍しい雪の荒れた天候にもかかわらず、研究大会にご参加いただきましたPTA会員の皆様へ御礼申し上げます。また、今年度は各単P、郡市Pの皆様へPTA活動に関するアンケートのお願いをさせていただきましたが、こちらも多くのご回答、あわせて皆様から県Pへのご提案をいただくことができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

研究大会の準備を進めていて、今回特に感じたことは「情報をもっと共有したい」ということでした。県内PTAでは様々な取り組みがなされているのに、自分たち以外のPTAはどのようなことをやっているのか、今一つ見えていなかったと気づきました。県Pには、そのような情報共有を促進させる活動が必要だと考え、研究大会において情報交換会を開かせていただくことになりました。情報交換会を開かすれば、各会員がお互いに刺激し合うことになり、それがよりよい活動のきっかけになると確信しています。

研究大会のみならず、今後も継続的な情報共有の取組が必要かと思いますが、ひとまず、今回の研究大会をチェンジ・チャレンジ・コミュニケーションのきっかけにしたいだけならば幸いです。

分科会 平成26年12月6日(土) ユー・アイふくい

第56回 福井県PTA連合会研究大会

第1分科会(子育て委員会)

「子育ては親の育ち直し」
「お母さんから学んだお父さんの子育て」

子育て委員長
田川 由佳代(あわら市金津中学校)



第1分科会(子育て委員会)の講演内容ですが、お父さん方の参加が多いということで現在3児の父であるNPO法人パバジャンクル副理事の掛斐 正浩(イビマサヒロ)氏に、パパ目線から現場での多くの経験や心理学を背景に、親子の上手な関わり合い方や親も子どもとともに成長していくという子育ての講演をして頂きました。

講演会テーマ「子育ては親の育ち直し」

「お母さんから学んだお父さんの子育て」
親として誰もが毎日笑顔でいられるような子育てが理想ですが、もし何かトラブルが起きた時に、子育ての過去にさかのぼり何が、どこが、不足していたのかを、立ち止まって振り返り、もう一度子どもとともに育ち直しをすること事で解決の糸口が見えて来ることや、ひとり遊びの不足が一人になる不安から、いじめっ子やいじめられっ子になる可能性がある事などを学びました。心に深く響く掛斐氏の講演で、大変貴重な時間を過ごす事が出来ました。

講演会当日は雪で足元の悪い中での開催となつたにも関わらず、たくさんの方々にご参加頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

また役員、委員の皆様方のご支援、ご尽力のもと第1分科会子育て委員会講演会の企画、運営を無事に終える事が出来ました事、深くお礼申し上げます。



第2分科会(広報委員会)

「語り伝える子ども達の見守り方」
「保護者の連携と地域の連携」

広報委員長
増田 秀勝(福井市酒生小学校)



第2分科会は、「語り伝える子ども達の見守り方」保護者の連携と地域の連携」をテーマに掲げ開催いたしました。初めに坂井市三国木部公民館館長、森岡正巳様による講演会、「地域で行う見守り活動」を演題に講演を頂きました。

森岡氏の見守り活動の事例等を交えながら、保護者として地域としての見守り方法を学ぶことが出来ました。後半は足羽地区見守り隊長の坂井様、県警本部の小林警視長、保護者代表の下村様を交えてのパネルディスカッションに切り替えて、それぞれ立場と経験を聞かせていただき、ディスカッションを進めていくことが出来ました。子どもを見守るといことは、我が子だけに関心を向けるのではなく、保護者という立場から周囲の子ども達にも気を配ることが大切であることと、社会の結束力、地域力を高めることができる「ソーシャル・キャピタル」が重要であると、学びの深い分科会にすることができました。



第3分科会(環境委員会)

「あなたの知らない世界」
「いじめ・虐待・非行」

環境委員長
野瀬博経(敦賀市栗野小学校)

第3分科会は、あなたの知らない世界「いじめ・虐待・非行」というテーマで多目的ホールにておこなわれました。いじめは福井県教育委員会、虐待は福井県福祉相談所、非行は福井県警察本部からそれぞれに講師を派遣して頂き説明を頂きました。

いじめは現在インターネットの普及により24時間行うことが出来るということ聞きドキッと、虐待は年々増加していることまたまたドキツとし、本当にあなたと知らない世界はあなた方の家庭の中にあると言われてグサツときました。非行という言葉は軽く捉えて、いじめ、虐待、非行とは犯罪という文脈は使わず、非行と呼んでいることをお聞きして、非行イコール犯罪であるとして、非行を捉える必要があることを知りました。

第3分科会には参加希望者が一番多い分科会でした。70分という限られた時間の中で3人の講師の方も精一杯お話し下さいました。アンケートの結果から考えると、「大変参考になった」よりもその次の「おおむね参考になった」が多かったことで、その期待の大きさと、お話の内容のギャップを感じてしまっています。



一筆啓上・我が家の三原則

今回もたくさんのご応募ありがとうございました。
今回は会長賞(2作品)と優秀賞(8作品)を紹介させていただきます。

会長賞

坂井市春江東小学校5年 佐藤 芽紅

- 一 照れずに言いますありがとうございます
- 二 毎朝そろってごあいさつ
- 三 すなおにいます。ごめんなさい



ママへ
ボーカーフェイスのわたしなのに、いやな事があると、何で分かるの?
めへへ
毎日、「何かあった」って聞いているだけ。その時だけ、反応するんだよね。

会長賞

あわら市金津中学校3年 三谷 大貴

- 一 一日一日の積み重ねを大事にしよう
- 二 時間を有効に使う
- 三 自分でできる事は自分でやる



大貴へ
人生は一度きり。あなたの人生がどんなふうになっていくかトアを開けるのはあなた自身なんだよ。
お母さんへ
いつも、お母さんの言うことをきかなくてごめんね。いつも大切なことを教えてくれてありがとう。

優秀賞

越前市武生西小学校1年 大友 由奈

- 一 すなおにいおね。ありがとう。
- 二 ちいさなまぐひょうをもつて、「なんでもチャレンジ」。
- 三 いっぱいおはなししようね。「かぞくたのこ」。

ゆなへ
おりがみに、「ありがとう」のまじ。ゆなからのてがみはたからもの。また、あしたも、がんばれるよ。
おあさんへ
まいにち、ありがとうが、たくさんあるよ。ありがとう。「は、あったかいね。まほつみたいなごぼだね。」

太一へ
越前市吉川小学校2年 河合 太一

- 一 元気にあいさつする
- 二 せつたいにウソをつかない
- 三 なんでも話そう

太一へ
太一のウソは、顔を見ればすぐに分かるつちやう。本当の出来事や気持ちをたくさん聞かせてね。
ママへ
ボクのウソがわかるママの目がこわいですがウソをついてごめんなさい。もうしませぬ。

まいへ
坂井市春江西小学校3年 齋藤 優月

- 一 知らんぷりしない
- 二 人のせいにならない
- 三 生き物を大切にしよう

ゆづきへ
ホタちゃんのおせわ、がんばっているね。やりたくない時もあると思うけど、生き物は、なげ出せないからね。

お母さんへ

小浜市口名田小学校6年 堀口 恭哉

- 一 みんなにあいさつ
- 二 やくそへを守る
- 三 残さず食べる

お母さんへ
ホタちゃんのおせわはいやでやりたくない時もあるけど、ホタちゃんのかわいい顔を見るとがんばれるよ。
ママへ
ママは、「チャレンジしてらっんー」と言っても最後までがんばるんだよ。」と言います。この言葉、大好きだよ。

まゆちゃんへ
まゆの一生けん命がんばる姿が大好き！汗かいて涙流した分、キラキラ輝いているものね！！

田中 武尊

- 一 自分の事は自分でやる
- 二 ごはんを残さず食べる
- 三 父の田んぼの手伝い

お父さんへ
いつも田んぼをやってくれてありがとう。ほくたちはそのおかげでおいしいごはんが食べれるよ。ありがとう。
お父さんへ
お父さんが作っているお米をたくさん食べて体も心も大きく育つて下さい。いつか一緒に田んぼを作りましょう。

堀口 恭哉

- 一 「ありがたい」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。
- 二 「ありがとう」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。
- 三 「ありがとう」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。

お父さんへ
「ありがたい」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。

お母さんへ

高浜町高浜中学校1年 清常 優衣

- 一 あたりまえのことにも「ありがとう」の感謝を伝える
- 二 子どもが決めたことは親は見守り口出しせず
- 三 笑顔の「こんにちわ」で地域の方とつながろう

優衣へ
努力家の優衣に、いつも先回りして口を出してごめんね。優衣なら大丈夫！自分を信じて決めた道を歩んでね。

柳 優子

- 一 「ありがとう」あたり前のことに感謝しよう
- 二 目を見て話そう！会話を大切にしよう
- 三 楽しいこともつらいこともみんなと共有しよう

お母さんへ
いつもたよってばかりの私だけ、これからは自分の力で何事も一生懸命がんばります！応援して下さいね！

柳 優子

- 一 「ありがたい」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。
- 二 「ありがとう」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。
- 三 「ありがとう」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。

お母さんへ
「ありがたい」のひと声で、「一日何があったのか」わかります。今日も楽しいことあったよ。

第70回 東海北陸ブロックPTA研究大会

岐阜大会 IN 下呂

元気・笑顔・レインボー・大きな夢を子どもたちに

第1分科会(家庭教育A)

子どもの未来は家庭の絆から

福井県PTA連合会 副会長 高山 外喜代(坂井市春江中学校)

第1分科会では2つの実践発表も然る事ながら、パネルディスカッションでは本心に考えさせられました。最近、親の教育力が落ちてきているそうではないですか？

家庭教育力↓家庭の明るさ↓親周りの大人様々な事情で親がいない場合が機嫌良く過ごす。他人優先で心に余裕が持てる。周りとつながりを持つ。自尊感情(自分のこと大好き)や自己肯定感(自分は出来る!)を持つようになる。自分のところに来てくれた我が子に無条件で感謝出来るかどうか?ありのままの子どもの存在を愛し感謝出来れば、それが最高の家庭教育になる。親に対して、産んでくれてありがとう!子どもに対して、産まれてきてくれてありがとう!と思えたら子ども心の充電が切れる事はないそうです。

ちなみに、子どもが親にされて嫌なことは:
親に叱られたとき 0割
夫婦喧嘩、のしり合い 1~2割
日常的な愚痴や文句を言っている 8~9割
だそうです。皆さんはこの結果をどうとらえますか?

第3分科会(学校支援A)

学校を支援する

福井県PTA連合会 総務委員長 結川 孝利(勝山市村岡小学校)

下呂大会では第3分科会の「学校支援」をテーマにした分科会に参加しました。日本では今後少子高齢化が進み、子どもの数が年々減少している学校や地域が多いのではないのでしょうか。そんな中で岐阜市立徹明小学校PTAによる発表は、子どもの減少、PTA会員の減少という環境を意識した活動の発表でした。先生だけでは足りない部分を保護者が積極的に協力して、こうという姿勢、学校に地域の人を巻き込むことで、学校だけでなく地域も守っていくという考え方です。地域には伝統文化や地域に根差した事業があります。それらを子どもたちに地域から伝えることで、子どもたちのキャリア教育にもなり、将来的に地域を守っていくと感じました。実際には、授業参観日に地域の方に講師をお願いして活動されているということでした。現状だけでなく将来的なことも見越しての取り組みにいろいろ気づかされました。



第2分科会(家庭教育B)

孤独な親を作らない

福井県PTA連合会 広報副委員長 達川 恭之(坂井市東十郷中学校)

水見市立宮田小学校PTAからは「孤独な親を作らない」というテーマにて、福祉餅つき大会や「親を学び伝える学習プログラム」の取り組みについて、美濃市立美濃中学校PTAからは「親、地域、学校が共に成長することを目指して」というテーマにて「あいさつ・対話 活動や「子育て班」の取り組みの発表が行われました。

いずれの取り組みでも、いかに良好なコミュニケーションを保てるかに重きを置いており、会員一人一人が積極的に地域や学校とも交流を深めていくことで、地域全体がうまく子どもたちの教育環境を形作っている様子を実感することができました。これらの事例を、そのまま自分たちの地域に取り入れることは困難ですが、その根底にある考え方を参考にしながら少しずつ環境づくりをしていくことの大切さを感じました。パネルディスカッションでも参加者の各家庭の実状を交えながらの具体的な議論を聞くことができ、大変有意義な分科会となりました。

第4分科会(学校支援B)

敦賀スタンダードに基づくPTA活動

福井県PTA連合会 副会長 高畑 徹(敦賀市角鹿中学校)

第4分科会では、研究発表PTAとして本県より敦賀市立松原小学校父母師会が「敦賀スタンダード」に基づくPTA活動、地域を愛する子どもたちを育てるために、そして岐阜県の瑞浪市立陶中学校PTAが「学校・家庭・地域のトライアングル」のなかで心豊かに育つ陶中生、学校と家庭と地域が一体となって生徒を育てるPTA活動のあり方」の発表がありました。松原小学校では、敦賀市が推進している「敦賀スタンダードカリキュラム」の中の一つの柱である、ふるさと意識を高める教育を取り入れた「田んぼの学校」という校外学習を実施しており、地域の方々に協力していただく稲作の活動等が紹介されました。また陶中学校では、下呂地区と密接な関係を保ち、高齢化の進む地域において各種行事に際しボランティア参加の要請を受ける生徒たちの手助けをする保護者の活動が紹介されました。残念ながら少子化の影響で平成28年度に学校統合により閉校となるため、今後の取り組みに対する不安もこれからの課題としてあり、互いに交わっている間にとっても充実した分科会でした。

ドクター通信



ロコモティブシンドローム

福井県PTA連合会安全審査委員
(田中病院院長) 田中 廣昌

「ロコモティブシンドローム(運動器症候群・以下ロコモ)」
「メタボリック症候群(肥満症候群・以下メタボ)」という言葉は、最近、立派に市民権を得ましたが、ロコモという言葉はご存知無い方も多いと思います。

「ロコモ」とは運動器のことで、骨、筋肉、関節や神経など、体を動かす仕組み全体のことを指します。また、ロコモティブには「機関車」という意味もあり、力強い、活動的なイメージを重ねて名付けられました。

平成19年、日本整形外科学会が超高齢化社会の健康のあり方を見すえて提唱したもので、まだ日も浅く、十分認知されていないのが現状です。

運動器の状態が健康寿命を左右する

私たちが自分の体を自由に動かすことができるのは、運動器の働きによるものです。

「自分は若いから関係ない」などと考えないで下さい。骨や筋肉のピークは20才代から30才代で、それ以降は加齢とともに筋肉は衰え、骨も脆くなつてきます。

40才代以上の日本人で、腰の推間

板や膝の軟骨のすり減り、骨の量が減つて骨粗鬆症が始まっている人など、いわゆるロコモおよび予備軍が推定4700万人もいるという研究報告があります。

これは必ずしも今、腰や膝が痛いとか、歩けないということではなく、運動器の一部に障害が起こり、これらを放置しておくとなれば、病気の病気が、あるいは骨折のために歩かなくなったり、歩けなくなる危険性が高くなつて、メタボや認知症などと同じように、健康寿命(心身ともに自立して日常生活ができる生存期間)を縮める要因の一つになるということです。

わが国における高齢化率は、近い将来40%に達すると推定されており、ロコモはまさに国民病といっても過言ではなくなるでしょう。

ロコモが進行すると、要支援、要介護の大きな要因となり、本人だけでなく、国や家族にとっても大きな負担となります。

思い当たりませんか? ロコモチェック

運動器の病気は徐々に進行することが多いので、自分が年代相応の能力を維持できているかどうかを、常にチ

ェックしていることが大切です。

日常生活の中で気づけるよう七項目でできた簡単なチェック方法があります。一つでも該当すればロコモの危険性が考えられます。

- ① 片脚立ちで、靴下がはけない。
- ② 家の中でつまずいたり、滑つたりする。
- ③ 階段を上がるのに、手すりが必要である。
- ④ 横断歩道を青信号でわたりきれない。
- ⑤ 15分くらい続けて歩けない。
- ⑥ 2kg程度の買い物(1ℓの牛乳パック2個程度)をして持ち帰るのが困難である。
- ⑦ 家のやや重い仕事(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)が困難である。

身体のサインを見逃さず、早めの対策を

あなたはすでに加齢現象が始まっています。もちろん、加齢による、ある程度の運動器の衰えは仕方ないことですが、衰え方の個人差は大きく、特に気配りをしている人と、そうでない人とはかなりの差が表れるものです。

若い時期から適度な運動で骨や筋肉に刺激を与え、適切な栄養を摂る習慣をつけることが、運動器機能の維持には重要なことです。

「ロコモーション トレーニング」
ロコモの場合は、下肢筋力とバランス力を高めるトレーニングを行います。関節や背骨を安定させ、転びにくい体作りを目的にしましょう。

- ・スクワット (5~6回繰り返し、1日3回行う)
- ・眼を開いて行う片足立ち (左右1分間ずつ、1日3回行う)

家で簡単にできるとは思いますが、スクワットは膝に大きな負担がかかるような、膝を90度以上深く曲げないように、できれば膝がつま先より前に出ないようにします。すでにロコモの人は、机などの支えを使って安全に行つて下さい。

さらに余裕のある人は、回数を増やしたり、少しレベルを上げる工夫をしてみるのもよいでしょう。いずれにしても、無理をせず自分のペースで、可能な限り毎日続けることを習慣づけることです。

大切なことは、運動器は使い方や訓練によって長持ちさせることができるということであり、一生歩けることにより健康で豊かな健康寿命を築きましょう。

ネット研修会を開催いたしました

平成27年2月21日(土)敦賀プラザ萬象

福井県PTA連合会 環境委員長
野瀬 博経 (敦賀市 粟野小学校)

2月21日(土)・敦賀プラザ萬象で、日本PTA全国協議会が加盟する産学連携のネット啓発組織「安心協」協力のもと、ネット研修会を開催いたしました。

研修会では、ネット教育アナリスト・尾花紀子先生の基調講演とデジタルアーツ社(フィルタリング企業)工藤陽介氏によるミニ講座を行い、約400名が参加しました。

尾花先生の基調講演では、子どもたちが利用するインターネットにつながる機器が多様化し、環境が急速に変化する時代において、インターネットを安全に安心して賢く使える子どもを育てるためには、日常の会話で子どもの利用状況を把握できるような家庭環境づくりが大切であること、また、子どもとの対話の中で子ども自身が自分でコントロールできるルールを決めること



規範意識を育むことが重要であるとのお話をいただきました。

また、家庭と学校、サービスを提供する事業者等の情報連携が大切であり、ルールを守る子どもに育てるために日々の対話が大切であるとのお話で締めくくられました。

デジタルアーツ社の工藤氏からは、フィルタリングを活用することは子どものリテラシー向上につながるということ意識して、スマートフォンという道具を活用する力を育むことが重要である。また、ネットサービス事業者では保護者向けの詳細な啓発講座も開催しているのぜひ活用して欲しいとのお話をいただきました。

日本PTA全国協議会 表彰式

福井県PTA連合会 副会長 佐々木敦子
(福井大学附属中学校)

平成26年11月19日、日本PTA全国協議会表彰式典が、ホテルニューオータニにて開催されました。

今年度本県の文部科学大臣表彰は、美浜町立菅浜小学校PTAが受賞されました。日本PTA全国協議会会長表彰には2団体と個人4名の方が受賞されました。

受賞者代表で、前東北ブロック長・佐藤会長様が謝辞を述べられました。「東日本大震災で多くのPTA会員仲間、子どもたちを失い、未来を創造することなど出来なかった。そんな時、

全国のPTA仲間の温かい声が届き、東日本大震災募金活動が開始され、東北の私たちに元氣と勇氣を与えてくれた。

子どもたちには、生きる、育つ、学ぶ権利がある。子どもたちの未来に、一つでも多くの希望の光を灯したい。」

今も大変なご苦労をされている被災地の現状に、会場が涙しました。同じ子どもをもつ親として、被災地支援継続の重要性と、全国のPTAの強い絆を感じた表彰式典でした。

福井県PTA関係の受賞者のみなさま

●文部科学大臣表彰

(団体)
美浜町菅浜小学校PTA

●日本PTA会長表彰

(団体)
敦賀市立角鹿中学校PTA
鯖江市進徳小学校はぐくみの会

(個人)
能美浩志 渡邊ルミ子 井上常宏

松本知恵美

●広報紙コンクール表彰

(団体)
坂井市立丸岡中学校PTA

敦賀市立気比中学校PTA

永平寺町松岡小学校育成会

(敬称略)



福井県内の小中学生児童・生徒及び保護者の皆様へ

「小中学生総合保障制度」のご案内

福井県保険代理業協同組合 理事長 前田 智信

拝啓 時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。この度、福井県PTA連合会様において福井県内に所在する小中学生の児童・生徒様向けに「小中学生総合保障制度」を2015年5月より発足することになりました。本制度の普及代理店として、私共が担当させていただくこととなりましたので、改めましてご挨拶申し上げます。

昨年、兵庫県において、小学生の運転する自転車に跳ねられた女性が意識不明の状態になり、被害者から約1億590万円の損害賠償を求められ、裁判所が母親に対し約9500万円の支払いを命じた判決が言い渡されました。このような事故からお子様の幸福な成長を守るという観点で、非常に重要な制度と考えております。詳細に関しましては、今年度の入学式・始業式後に各学校から配布予定のパフレット等にてご案内させていただきます。

本制度がお子様の幸福な成長の一助となるよう普及に努めてまいりますので、是非積極的なご加入をご検討いただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具



(引受保険会社:東京海上日動火災保険株式会社)

福井県選出国会議員への請願活動

福井県PTA連合会 特別副委員長 栗原 泰道
(坂井市 木部小学校)



11月20日、福井県PTA連合会常任理事及び特別委員会の12名にて、本県選出の国会議員の方々をご訪問させていただき、福井県の子どもたちの教育環境に関する請願活動を行いました。

- ④アレルギー疾患等子どもたちの健康安全に対する多岐にわたる対応。家族の絆・ふれあいを深める活動推進のお力添え
 - ⑤子どもや保護者の支援・生活支援充実の視点からのスクールソーシャルワーカーの配置増員
- 以上の5項目を要望しました。この請願活動を通じ、感謝と勇気に満ちあふれる明日の福井の子どもたちのために、国会議員の皆様にはご尽力いただけるものと考え、と共により一層のご活躍を願っております。



みんながやっています

(各都市・単位PTA活動より)

「スマイル運動」「いじめ問題」「被災地支援」 福井永平寺ブロック

今年度福井市PTA連合会では「スマイル運動」「いじめ問題」「被災地支援」に取り組み、活動をしました。

●スマイル運動は、子どもたちが夢と希望をもって笑顔で心豊かに学校生活を送れるように、様々な取り組みを行っていく運動です。キャッチコピーを作成したり、講演や心温まる歌で思いやりの心を育み笑顔でいっぱいになりたいと活動しています。

●いじめ防止活動の一環として昨年度に引き続き「第2回いじめ防止標語・親子メッセージコンクール」を実施いたしました。3000通を超える作品はどれも心温まる素晴らしい作品でした。

●平成27年1月17日に福井法人会との共同事業である「親子ふれあいステージしおりコンサート」におきまして、被災地支援のための図書回収・即売会を実施させていただきました。収益は被災した学校に送らせていただきます。

皆様の温かいご支援ご協力に心から感謝いたします。ありがとうございます。

また、単位PTAでは県研究大会分科会でパネラーとして参加していただきました。明倫中PTAの取り組みについて、少しご紹介させていただきます。

「みんなで守ろうネットワーク作戦」3年前に相次いで不審者が出たことを受け、子どもたちを守ろうと発案しました。公民館や自治会連合会のご協力をいただき、不審者の出没する下校時刻帯に、地域の大人が一体となって子どもたちを見守ろうという

作戦です。この作戦には、スクールカラーの青色のタオルを持った地域の大人による「青タオル見守り隊」と、役員の家用車を防犯パトロール自動車として正式に登録した「青パト隊」が参加しています。



体験型の子育て研修会 坂井ブロック

坂井ブロックは旧丸岡町・旧春江町・旧三国町・旧坂井町による坂井市PTA連合会と旧金津町・旧芦原町によるあわら市PTA連合会による2つの市の連合会にて構成されています。

普段は交流がほとんどない各単Pが交流を深めるべく、坂井地区PTA子育て研修会を金津創作の森にて開催しております。

本年は12月4日に行い、生憎の大雪でしたがあわら市より14名、坂井市より54名、計68名の参加があり、陶芸・サンドブラスト・吹きガラス体験の3部門に分かれて子ども達と一緒に実技体験を行いました。

研修会という講師の子育てに役立つ講演を聴くというのが一般的ですが、坂井ブロックでは約5年前より、親子参加型の体験

イベントを行っております。講演を聴いてインプットし子育てに役立つ事も重要ですが、普段なかなか体験できない親子で物づくりを行うことにより、思い出づくりをするのも研修のひとつだと思いの思いから始まったのではないかと思います。受け入れ側の問題もあり、すべての会員親子の方は参加できないのが課題ではありますが今後とも親子参加型の研修会を行い子育てに役立つといければと思います。



PTA活動ふれあいコンサート 奥越ブロック陽明中学校

第15回ふれあいコンサートが8月24日(日)に大野市文化会館で行われました。文化系部活動の発表場所を設けるために、PTAが中心となり運営を行っております。今年度は15回目ということで、15年間続いています。地域の小学校や一般の方の発表も行っていますが、今年度は、大野市下庄小学校の金管バンドの皆さんに参加いただきました。過去年度の参加には、PTAによる合唱グループや地域の和太鼓グループの発表もありました。

陽明中学校には文科系部活動は吹奏楽部と美術部、自然部がありその活動の発表をステージに行います。吹奏楽部はコンサート、自然部は菜園の成長記録や環境保全活動について発表しました。また美術部はパフォーマンスを取り入れて絵を協力して描きました。それと、ホワイエでは、作品の展示を4日間行っていました。

生徒達の思いがこの発表に表れていると

感じられました。それを多くの生徒と保護者、地域の方に見て頂けたことは生徒達の励みとなります。この活動は、絶やさずに継続して頂きたいと思っております。

運営に関しては、PR用のチラシやポスターのデザイン作成は毎年美術部で行っています。その配布、掲示のお願いはPTAで行っています。当日の看板も美術部で作成しています。コンサートでの司会進行やホール出入りの管理、駐車場の誘導はPTAで行っています。そのことから、親子でふれあいコンサートに取り組むことが出来ました。3年間見ていると生徒達の成長がわかります。PTAとしては生徒達と学校の手助けが出来ればと考えて活動を行っています。



編集後記

広報委員会の委員さんを始め多くの方にご協力を頂きながら今年度も2号を発行することができました。

広報紙を作りながら活動を振り返ることができ改めて全ては子ども達のために活動していると感じました。各都市PTAの活動も紹介してきましたが活動内容に違いはあれども子ども達を中心とした活動です。今後も素晴らしい活動が継続していただけることを切に願っております。

ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございます。

広報委員会 委員長 増田秀勝